

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100121		
法人名	社会福祉法人報謝会		
事業所名	グループホーム青島ひかり		
所在地	宮崎県宮崎市青島2丁目186番地1 (電話) 0985-55-4000		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年3月30日

【情報提供票より】（平成22年1月11日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤6人, 非常勤0人, 常勤換算5.93人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 980 円		

（4）利用者の概要（平成22年1月11日現在）

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2	要介護2	2
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 71.8 歳	最低 68 歳	最高 88 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人常伸会亀山記念クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは3年前に小規模多機能型居宅介護事業所との併設型で開設された。宮崎県の代表的な観光名所の青島への参道入り口に近く、徒歩でも行ける近い所に、植物園や商店街が並び、日々の外出には恵まれた環境である。21年4月から管理者や新規職員との交代のほか、6月には、併設が住宅型有料老人ホームに変更となり、グループホームの管理者や職員がリフト車の運転や夜勤を兼務し、従来グループホームで実施されていた合同レクリエーション、運営推進会議、外出支援などが実施できない状況であった。11月に有料老人ホームに夜勤専任者が配置され、夜勤の兼務は解消された。今年度から職員に主体性を持たせる取り組みとして、レクリエーションや機能訓練の担当者制を導入し機能させたいとの意欲がうかがえた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回、職員の理念の共有や資質の向上、地域連携、食事に関する4項目の課題となった項目に対し、改善計画が検討されたが、併設の事業事情等により小幅な改善にとどまっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者の交代もあり全員で評価の意義を検討し、職員が利用者に必要な業務を担当者制として、新たにレクリエーション担当と機能訓練担当を設けた。担当者が企画、計画、記録に責任を持ち、目指す方向性を共有しモチベーションを高める取り組みが行われつつある。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	20年度までは、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月ごとに開催されていたが、小規模多機能が廃止された21年6月以後は開催されていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	開設当初から家族会があるが、今年度は家族が一同に会する機会は無く、運営推進会議も開催されず家族の意見を得る機会が少なかった。日勤帯は看護師が勤務するので、利用者や家族だけでなく職員の不安も軽減されている中、利用者が夜間一人でベッドから移乗時に転倒し骨折した事例があり、職員で再発予防や発生時の対応等について協議された。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	今年度は、地区公民館の会合にもホームからなかなか出席できず、また、運営推進会議が開催できずに地区代表者との意見交換の機会が少なく、情報不足のまま地区の行事の参加も昨年ほどできなかった。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が家庭的な環境と地域の方々との交流の下で、暮らし続けることを支える事業所独自の理念がつくられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向け、日々の業務でどう取り組み具体化しているのかを、ミーティング等で新人職員が理解できるよう取り上げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入しているので、地域の理解は得られている。回覧板で会合や行事の把握はできるが、夏祭り程度で昨年に比較すると交流は少なかった。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を生かした具体的なサービス提供の実現のため、新たに、レクリエーションや機能訓練の担当者制を設け、職員の意欲や意識を高める取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの開設当初から併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で定期的開催していたが、小規模多機能の廃止により、21年6月以後推進会議は開催されていない。	○	運営推進会議は、グループホームの基準省令に基づき定期的開催し、ホームの運営に関する意見や助言を引き出していただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宮崎市介護事業を受け、介護相談員によるグループホーム訪問は、利用者と行政の橋渡しの機会となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の意向の把握や報告及び連絡が直接できる機会として、利用料を直接納入制にし、来訪時に意志の疎通を図るようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会を開催していないので、家族の来訪時には、職員は話やすい雰囲気づくりに配慮したり、職員から意識的に声かけし家族の意見や不満などを引き出すよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前併設していた小規模多機能型居宅介護事業所と合同でリハビリやレクリエーションを行っていたことがあり、ホーム以外の職員にもなじんでいたため、今年度、管理者の交代や離職、新規採用と異動があったが、利用者への精神的な影響はあまりないようである。管理者は、職員同士が気持ちよく働き続けられ、離職者を出さないことが利用者に対して必要であると認識している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対する研修計画や、ホーム外の研修記録も十分でなかった。併設施設の移送や夜勤の兼務もあり、ホーム外の研修参加は少なかった。	○	運営者は併設の一部の業務支援も存続している状況下で、職員が研修に参加できる柔軟な勤務体制や配置を行うなど、職員の更なる資質の向上とモチベーションを高く維持し続けられるよう努めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎市グループホーム連絡協議会には、昨年度まで管理者のみの出席であったため、今年度は職員も出席を予定していたが、勤務上の都合により管理者だけの出席となった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始まで余裕があれば、本人や家族の希望に合わせ、ホームの見学ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーションや食事に職員も一緒に参加し、利用者と共に喜びを共有し、悩みや不安がある時は寄り添うように努めている。人生の先輩として、尊敬の念で対応するよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や言葉、行動から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、家族からの助言も受けながら、利用者が何を求め何を考えているかを引き出す努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者を担当する職員が中心となり、カンファレンスを活用しながら、計画作成担当者と共に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や関係者の意見を入れながら、3か月ごとに評価、見直しを行なっている。必要な場合には随時の見直しが行われ、新たな計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診への同行や歯科治療など、本人や家族の希望になるべく柔軟に対応できるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向で、主治医は入院可能な協力医が多い。透析が必要な利用者の送迎は、医療機関で行われている。ホームの看護師による情報提供も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化や特に終末期のあり方は、契約時に家族へ簡単な説明で終わっているため、今後、家族や主治医と共に具体的な急変時対応を協議する必要性を感じ、検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用開始時の情報収集で、誇りを損なう話題や言葉遣いに気をつけている。目に触れる所では記録しない気配りや保管にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などの大まかなタイムスケジュールはあるが、無理に合わせるのではなく、本人の意思や希望を尊重しながらくつろぎ、レクリエーション、会話などを通して支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人内施設から調理済みで配食され、ホームでは職員が加温し配膳している。食事が単に食べるだけの楽しみであり、利用者と相談しながらの献立や、個人の好みや持てる力を一連の作業を通して発揮できる体制でない。	○	現状の配食形態の中でも、食事を楽しむ取り組みとして、利用者と共に一緒に買い物をして一品追加したり、郷愁を思い出させる季節感ある手作りのおやつや保存食づくりなど、個々の力を発揮できる方法を見いだしていただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後は受診などがあるため週3回、午前中に入浴している。浴室に浴槽が2つあるので、希望者同士がそれぞれの浴槽ではあるが、同時に入浴することを喜んでいる方もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な役割では洗濯したタオルやオシボリたたみをしている。レクリエーション担当者が企画したり、利用者の希望を聴きながら風船バレーや歌などで楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昨年ほどには利用者が希望する散歩や買い物に、職員の外出支援ができない状況であり、家族に協力依頼をして外出や外泊を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守りやセンサーを取りつけ、鍵をかけないで対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内には警報器とスプリンクラーを取りつけている。毎年2回、火災を想定した避難訓練を実施しているが、夜間や地震、津波に対する訓練の必要性を認識している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録し、一人ひとりの状態を把握している。早食いやえん下障害がある人には、食事時間をずらしたりトロミ食にする等、食事形態を変え必要量が摂れるよう努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は、不快な音や光はなく臭いの対応もできている。好みにより冬場はコタツを準備し、夏場はウッドデッキで過ごすことができる。季節ごとに応じた飾り物が少ないので、レクリエーション等を利用して取り入れたいと検討している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋は、和室に利用者がベッドを準備し使用している。来訪者もゆったりと過ごすことができる広さである。家具やテレビなども好みにより自由に持ち込みがされている。		

※  は、重点項目。